

《愛の形見に:

ジョン・ブレンナーからの手紙》



Mr. John Bremner, MA
Child Psychotherapist
Chief Psychotherapist,
St George's Hospital, London



翻訳: 山上千鶴子



1980年6月3日

親愛なるチズコへ

あなたからのおたよりが届き、あなたの新しい仕事の方も上首尾にことが運んでいると伺い、その吉報ともいえる知らせが私にどれほど大きな喜びをもたらしたか、とても言葉に尽せません。

あなたのご努力はとても並大抵ではなかった筈です。でもあなたはいつも懸命に目的を遂行せんとの意志をお持ちでおいでですし、さらに大事なことは、あなたのご家族が互いを思い遣り、援助を惜しまない方々だということがあります。あなたのお父さまが肺癌の手術をなさった折はどんなにご心配でしたでしょう。そしてそれが見事に成功したときの皆さま方の大きな安堵は十分にお察しいたします。お父さまがその後順調にご快復なされておいでであることを、そしてご家族皆々さまの健やかなることを祈っております。

あなたのお仕事については目下のところ実地的確な判断をなさったと云えましょう。精神科病院での成人の患者を診るといった経験は実に得難いものですから。実際のところ、成人のパーソナリティなるものとは乳幼児にその基盤があるわけです。同じ基本的不安に苛まされて葛藤しながら、同じ防衛メカニズムを用いながら、ただそれを別の(成人の)表現へと置き換えられているだけなのです。あなたはこれまで児童を専門としてきましたから、ただ成人だけを見てきた人よりもさらに一層深く遡り、そうした事の真実を掘り下げることが可能かと思われます。成人は、3～5歳児などに比べれば、その表出において格段に動きはゆっくりとしておりますし、直接的とも云えないでしょう。しかし転移やらその分析に関して云えば、その経緯も展開も児童と成人に違いはありません。同じなのです。やがていつかあなたがプライベートで成人の患者を診る機会があればいいと思われます。そうなれば、そこでの精神分析治療の体験はまさに、患者さんにとってかつて誰も想像だにできなかった、実に新しい試みとなりましよう。

どうやらあなたのお住まい兼面接室はとても快適のようですね。お値段が随分張ることでしょう。わたしの住まいの St. John's Wood 近辺ではまずまずそれほどもしないと思われます。

あなたが子どもの患者を診はじめていると伺い、嬉しく思います。おそらくもっと低年齢の子どもを診る機会があればと思いましたがけれども。日本に「乳児クリニック」はありましたか？ そうしたところには、時折心理的な問題を持つ子どもを抱える母親が来談しましよから、もしもどなたか懇意の小児科医がいらして、そうしたところにあなたが臨席できたら、何かのお役に立てるとい

ったことはありませんか。そのようにしていずれ低年齢の子どもを分析患者として診ることの可能性を探ってみるのもいいでしょう。おそらくあなたなりにいろいろ方策を立てておいででしょうが。それで、ここしばらくは東京在住の心理職のアメリカ人たちとの連携といったお話もとても結構じゃありませんか。

それからあなたが企画しておいででのセミナーに精神科医やら心理職の有志の方々が集われておいでと伺いましたが、そうした後進の指導においてどれほどあなた自身学ぶものがあるか驚かれましょう。普段分かったつもりでさほど頓着しない概念をも改めてじっくり考え直してみる機会ともなりますしね。実に貴重なことです。さらにはあなたの分析的な洞察やら技能がここ2年も経てばどれほど向上するか、おそらくいつか振り返られてびっくりなさるでしょう。それは年の経過とともにどんどん募ってまいりましょう。それからさらに申せば、あなた自身が体験なされたパーソナル・アナリシスが決して終止符を打たれたわけではなく、あなたの裡でさらに継続されて、尚も大きな意味を持ち続けていることに改めて気づかれるのではないかと思います。

ここではあなたを失って淋しく思っている人はたくさんいます。私も勿論です。しかしながら、あなたが帰国し、ご家族と再会されて幸せにしておいでで、しかも仕事の方も順調にいき始めているということを伺えば、私の喜びはそれに勝るものはありません。なぜならそれこそが、あなたが初めて私どもに会いに来られた折に私が思ったことであり、またあなたが望んだことでもあるわけですから。今やそうしたことをあなたが見事に叶えられたわけですから、とてもとても報われたという気持ちが致します。

そこで、あなたの方はすべて実に順調にことが運んでいると伺いましたから、私もここで安心して退職のことをそろそろ考えてみたい気持ちになりました。セント・ジョージ病院の仕事の方なのですが、おそらく来年頃には潮時と考えております。

病院のシステムは、体制が変わり、今やどうにかようやく落ち着きを取り戻しつつあるといったところですよ。サイコセラピストとして Debbie Bandle (Hampstead 系の訓練生)、Sue Rolling + Gabriella Spanc (Tavistock 系の訓練生)で、それぞれが4セッションを担当しています。彼女らはどなたもとても優秀です。Sue と Gabriella とはとてもうまく行ってますし、彼女らを指導するのは至極興味深いです。しかしながらちょっと気掛かりなことは、この秋頃に赴任してくる主任格の心理職というのが行動主義者で、殆ど臨床経験のない、学者肌の人を採用してしまっていることです。Andrew Pound は退職しますし。

私は自宅の方で、タヴィストックやら他からも何人か訓練生が通って来てましてスーパーヴィジョンをお引き受けしております。私の一番上の息子の Jock は、Southampton 大学の化学専攻で最終学年におります。いずれ British Petroleum へ入社しコンピューターの仕事に携わりたいといった希望であります。Sandy は、Royal Free 病院で見習い医師として励んでおります。Alastair は、もうあと一年で A-レベルを取得したら、同じく医師になろうと決めておりますようです。Donald は、Polytechnic の大学で工学技術に夢中です。なんと彼はホバークラフトを見事に設計組立しまして、その試運転には父親の私をも同乗させ、時速50マイルで海の上をがんがん乗り回したといった具合です。

私の健康は磐石です。ただセント・ジョージ病院への通勤に車の運転が以前ほど楽ではなくなりました。退職したら、そうしたこともなくなると思えば実に嬉しいのです。勿論病院の皆さんにお目にかかれなくなるのは淋しいですけどもね。妻のダイアナはカウンセリングの仕事に満足してまずし、趣味の庭づくりにも精出しおりますもので、お蔭で庭がほんとうに美しくなってゆきます。

あなたのコンサルティング・ルームの扉の看板に《児童分析ヤマガミクリニック》と掲げたことは、実に素敵に思われます。お父さまがどんなにかあなたを誇りにし喜んでおいででしょう。いつか将来稼げてもしも蓄えができましたならば、是非ともこちらへまたお訪ねなさるといいですね。

それでは、あなたからの心弾む嬉しいおたよりに改めて感謝します。いずれまたどうぞそちらの様子なりを是非お聞かせください。

たくさんの愛を込めて ジョンより



1980年11月30日

親愛なるチズコへ

今年もそろそろクリスマスを迎える悦ばしい季節となりました。そしてもう直に新しい年が訪れます。あなたもそしてご家族の皆さま方も、ご機嫌よろしくお過ごしでいらっやいますか。

さて、この年はあなたにとってどんな年でしたか？ おそらくは万事上首尾とはいえ、それも実に大変な努力の賜物でありましょうし、おそらくは折々に問題に遭遇なされたことがない筈ありませんでしたでしょう。あなたがタヴィでの正式

のトレーニングを終了して以来のこの一年半を振り返ってご覧になり、この間にどれほど多くの学びがあったことかと改めて驚かれておいでではありませんか？ 心の成長は尚もますます今後もあなたの生涯を通して続いてゆくことでしょう。

こちらの近況をちょっとお耳に入れます。タヴィの Eve Richards をあなたは覚えてますか？ 彼女は Mr.Brian Steel という方と結婚したばかりなのです。その方はオーストラリア大学でスペイン語の講師とか教授とからしいです。それで結婚後はあちらで定住なさるらしい。彼女、とても幸せそうに見えましたよ。

それからセント・ジョージ病院の話になりますが、つい二月頃でしたか、病棟の移転がありまして、それで新しいメンバーの編成もありました。現在のところ、私の他に3人のサイコセラピストがおります。Gabriella Spano と Sue Rollings はタヴィストック在籍の訓練生で、もう一人 Debbie Banoller はハムステッド・クリニックの研修コースに在籍中です。彼女らはどなたも著しく優秀です。そして皆、なんとか落ち着き始めておりますが、適当なセラピイの症例を探すのはいつもながらとても容易ではありません。土台どうもソーシャル・ワークのサポートがうまく機能してないのです。それから主任格の心理職が熱烈な行動主義者というわけですからね。今までのところ私どもの仕事に殊更に邪魔立てはして来ませんし、今後もそれはないと思いたいわけですけども。

前思春期の子どもを扱うディ・ユニットが開始され、Geraldine Fitzpatrick が責任者です。David Walk は5歳未満の子どもを担当しています。一方で、入院ユニットの方は(ベッド数は10ほど)、今のところ経費削減を理由にオープン先延ばしされている状態です。

私としては来年の7月の末まで、或いは遅くとも10月の末頃までには仕事に就いていたいと思っておりましたが、どうも近頃病院までの車の運転が些か疲れを感じるようになってきましたもので、そろそろ本気で退職を考えております。決して仕事そのものが嫌になったということではありません。ごく日常的には私は十分に健康でありますし。同僚の皆と別れるのはとても辛いのですが。自宅ではこれまで通りプライベート・スーパーヴィジョンをしておりますから、こちらの方はまだ当分続けたい意向であります。

あなたからいつぞや頂いた Sony のラジオ & テープレコーダーですがとても調子が良く、依然として私の傍らで慰めとなっております。あなたにも何かクリスマス・プレゼントを贈りたいと店先をあちこち物色して歩いてみたのです。しかしながら、どうしてもこれだというのが見つかりません。つまりはこれこそがまさに‘英国のもの’ということで、同時にチズコが間違いなく喜ぶに違いないというものでなくてははいけませんわけですから。今年ほどこの店の品々がどうも詰まらない印象です。**Donald Meltzer** による著書【The Kleinian Development】はあなたにお送りしてますかね？もしまだでしたら、ぜひともお送り致しますよう。

さて、私の家族についての近況ですが。妻のダイアナと私はどちらも元気です。しかし、ちょっとダイアナが大腿骨部に故障を抱えております。関節炎らしいのですが、とても残念なことに思っております。Jock はちょうど22歳になったところで、彼は British Petroleum に就職したところです。コンピューター部門に配属されました。Sandy は医学部の2年目です。Alastair は医学部進学をめざしております。一方、Donald は電気エンジニアにすっかり魅了されております。

あなたもご家族の皆さん方もどうぞ御元気で、そしてあなたの仕事に一層ご発展がありますようにと祈っております。どうぞお暇な折に、そちらの近況をお知らせください。どうぞ良きクリスマスを皆々さまと一緒に迎えてくださいますように。

愛情を込めて

ジョン・ブレンナーより



1980年12月10日

親愛なるチズコへ

ここにローゼンフェルドの論文を同封しました。著作権からこのコピーはあなたに限ってということになさって、複写はしないように。この論文が掲載されたジャーナルの名と日付が分かり次第、いずれあなたにお知らせ致しますよう。

これは読解するには簡単な論文ではありません。この内容をなんとか理解し呑み込む唯一の方法というのが、じっくり時間を掛けること、そしてメモを書き留めながら読み進むことです。そうやってゆくうちにそれぞれの文章が最初のうち不確かだったのが徐々に確かなものになっていったように私には思われます。このような手間を掛けると確かにすごく時間は消耗しますが、そこに何が語られているかを自分の頭で考える余裕が生まれますし、そうしますとそれが己自身の経験やら症例やらにどう結びつくかも分かってまいります。これはとても貴重な論文です。あなたが精神科病院で遭遇するところの精神病者の病態について理解をより鮮明なものにするに違いないと思われます。

Donald Meltzer の見解では、精神病的作用とはその主要な側面において内的な現実と

外的なそれとの差異が欠落しているということにあります。その原因となるのは、早期の養育上の諸々の貧困的状况にありましようし、それに生まれながらに備わっている心的な遺伝質といった影響があるとも云えましよう。例えば、心の内における、建設的かつ思いやり深い能力と破壊的かつ羨望的側面のアンバランスといった事柄もその一つです。

もしも生育環境があまりにも過酷である場合とか、或いは生まれつきの遺伝質がかなりの程度不利な場合、これらの人々がもしも幼児期になんらかの援助を受けていたならば精神病にならずに済んだ筈だとは断言しにくいでしょう。確かにさほど多くを期待できるとも言えないにしろ、早期の援助ならばいくら救済できる場合もありましようし、或いは環境的要因や生来的な要因がさほど過酷ではない場合にはいくらか病態を緩和することがあるかも知れません。個々の症例によってそれぞれにやはり違いがあるわけですし、とにかくも我々はそうした両方の要因が混ざり合っていると考え、そして対処してゆくこととなります。

如何でしょうか。精神科病院では長期化している病態の重い精神病患者を治療することが不可能事であることがありましようから、あなたもその点で折々に悲嘆やら憤りを覚えることがおありかも知れませんね。しかしあまり深く落胆してはなりません。一般的に言って、問題があると人はいとも簡単に答えを求めすぎます。そしてそれがいとも簡単に解消されることしか望まないものです。例えば、分析的なサイコセラピーといった新奇なものが到来した際には、彼らはまずく結構ですなあ。では奇蹟を見せてください。お手並みを拝見しましよう>と言うでしょう。或いは、

もっとひどい場合には不躰にもく答えを言ってみてくれませんか？自分たちにだってやれなくもないでしょう>とほざいたりするわけです。

しかしその答えの意味するものが、長期に亘る困難を究めた研鑽やら、時間を掛けた慎重で骨身を惜しまぬ勤勉さ、それにはセラピスト個人が耐えねばならない心的苦痛やら煩悶やらも含まれるわけですが、実にそうしたことだと分かった瞬間に、彼らはくもう結構です。役に立ちそうにないですね>と投げ打って、他のもっと別のなにか、たとえそれが大して効力がなくともより簡便なものの方へと向きを変えるに違いありません。そうこうしている間に、あなたもあなたの仕事もさっさと不要なものとなされ、流行から取り残されてしまうことになりかねません。実に我々が今やこの国で直面している現実がまさにそうなのです。

ここで問題として挙げられることは、我々は援助することを望んでいるということ、だから切実に求められているところの答えを瞬時に提供せずには済まないものと信じ込んでしまうこと。それはごくあり得ることです。しかしながら、答えんとするにしても、それは飽くまでも真実とともにあり、そして真実によってのみ可能なのです。奇蹟を演出するわけにはゆかないのです。しかしながら、そうは言っても実に多くの症例において我々が援助し得ることは少なくありません。だがそれらのどの症例にしろ、慎重かつ辛抱強い取り組みを通してでしかありません。そこでは時間がそして大変な労力が費やされます。

いつぞや折々に確かあなたにも申し上げたことがありましたよね。<神さまは、チズコがいつもいつも成功するなど、予め石板に銘記してな

ぞいないんだよ>と・・・。即ち、誰にとってもベストを尽くすことしか出来ないのです。それ以上は無理なのです。

あなたは今や敢えて困難な道を選び、そして歩み始めたのですから、ご自分の判断でやることをおやりなさい。それが東京でアメリカ人の子どもたちを診ることを意味するとしても、それでも結構でしょう。そうなさればいい。

ところで、日本では日本人向けの保育園とかプレイ・グループとかはあるんでしょうか？もしあれば、そうしたところでスタッフやら子どもたち、そして母親たちに対してもあなたが何かお役に立つような援助的かつ指導的地位を得ることがあってもいいでしょうね。あるいは家庭訪問の巡回保険婦さんやら、妊婦さんのための助産施設とか小児科クリニックとか、そうしたところでの専門職のスタッフと関わりがもし持てれば、一緒に連携してゆく可能性が芽生え、さらには小児科医とか看護婦が投薬のみでは当面解決し得ない不安や悩みを抱えてると判断した母子をあなたの許へご紹介して下さったりすることもあり得ましょう。Isca Wittenberg はかつてそのようなことをしておられたのです。Mrs.Beryl Sandford も Betty Joseph もそうでした。そしてウイニコットは Paddington でそうしたクリニックを営んでおられますようです。

さて、ところであなたの主宰なさるセミナーの方は如何でしょうか？あなたがいつぞや届けて下さった《ヤマガミクリニック》のご案内地図がとても気に入っております。飛んでゆけるものなら行ってぜひ一週間なりとも一緒できたらよろしいのと思いますが、そうもゆきませんので。ここに論文やらおたよりをお送りする次第です。

どうぞご自愛くださるように。幸運を祈っております。

たくさんの愛を込めて

ジョンより



1980年12月28日

親愛なるチズコへ

先日はダイアナと私宛に実に美麗なるクリスマスカードを頂戴しまして、どうも有難うございました。それからあなたの心打たれるお手紙も拝読いたしました。感謝申します。

Miss.D.Weddell※のご逝去の報は実に沈痛きわまりなく、彼女を知る誰もが深い哀悼の思いに打ち沈んでおります。〔※訳注：トレーニング・アナリスト。〕もはやこの世で彼女に再び会うことも叶わず、彼女の親しげな声、彼女の穏やかなユーモア、彼女の堅実なる知力が再び聞かれることはもはやないのですから。

この喪失は現実的な喪失であり、そしてあなたにとって、彼女という人に最もよく通じていたわけですから、ひどいショックでないわけはなく、また同時に深い悲哀を覚えずにはいられなかったはずと思われます。それにしても、あなたのパーソナル・アナリシスの終結後間もなく、大して時を経たずしてこの彼女の死はあまりにも早すぎました。どんなにかあなたは彼女が生き永らえて下さって、幸せにお暮らしであることを願われておいででしたらう。もしそうであれば、これからの長い歳月を通して、あなたとの分析が成功であった証をご覧に入れることができたでしょうし、そして彼女から得た知恵の結実をあなたが他の人たちに与えられているということを彼女にお聞かせもできたでしょうね。またそうであれば、彼女がそれ

らを知ることで、どんなにか喜んでいただけたのにと残念にお思いに違いありません。だが、そうしたことを彼女がまるで知り得なかったものと、あなたは思われますかしら？

実は、私は **Doreen Weddell** を友人としてもよく存じ上げております。互いに頻繁に行き来しあう間柄ということではありませんでしたが。それから、分析中のあなたについても、我々はお互い同士、話題にして事細かに語り合うことなどありませんでした。それは慎まねばならぬことですね。しかしながら、彼女は私に語ってくれたことがあります。あなたが分析に懸命に取り組んでいたということ、それで彼女はとても心嬉しくもあり、かつあなたとご一緒に分析の仕事ができて誇りに思っているとおっしゃってましたよ。ほらね、そういうことですから、あなたが彼女に何も与えずに彼女に逝かれてしまったということでは断じてないですよ。

わたしたちはごく身近な誰かを喪ったとき、まるで自分自身の一部を奪われた気になります。外界においてその人が消滅してしまってるのだから、もはや我々の内なる世界においても生きていくはずはない、即ち、我々の外の世界において死んでしまったのだから、我々の心の内側でも死んだように思いがちです。そしてさらには彼らが逝ってしまうことで、彼らが我々に与えてくれた全てが取り去られてしまったようにも思いがちです。しかし、全ての彼らが我々にとって意味したものの悉く、その全て、思いやりのこころ、包んで護ってくれたこころ、導き育ててくれた知恵の全ては、我々が尚も生きて心を持つ限り、それらは決して奪い去られることなぞないのですよ。それは私たちのものであり、わたしたちの一部なのですから。それは、私たちに与えられた母乳が

わたしたちになるのとそっくり同じことです。頂いたものは決して奪われることはありません。与えられた愛情と知恵は、わたしたちの中で私たち自らの理解力を増しつつ尚も大きく育てゆきますし、それらはまた他の誰かに与えられ、分かち合われることでしょう。この意味で、私たちにとって身近な人たちは、わたしたちの内に尚も生き永らえ、我々を援けてくれるし、また我々を通して別の誰かをも援けることとなるのです。

分析の終結は、誰にとっても常にそうなのですが、引き続き喪を味わうに至りましょう。もしもこの期間に分析家の死に遭遇するとしたら、喪の苦痛はさらに深刻なものとならざるを得ないでしょうし、おそらく喪を長引かせる結果となりましょう。しかしながら結局のところはそれが我々を尚も逞しくしないはずはありません。しかしそうは言っても、目下のところ、それもあなたにとって大して慰めにはなりませんでしょう。あなたの憂慮、取り残された悲しみやら淋しさ、そして心の痛みは痛いほど分かりますから。

さて、私自身についてですが。私はまだまだ長生きしようと思っております。私の心臓の具合もまずまずで、痛みは全然今はなくなってます。体の調子はいいと思っておるところです。実際のところ痛みがあったのがいつだったか覚えてないぐらいですからね。以前は毎日のようにあったわけです。でも少し交通量の多いところだと、車の運転はちょっとくたびれる気がします。しかしごく普通に人並みに年を重ねてゆくことの不都合以上のものは見当たりません。セント・ジョージ病院は、来年の夏の末頃に、私もそろそろもう直70歳になろうとしていますし、隠退するつもりでおります。自宅でプライベート・スーパーヴィジョンにお越しの方をたくさんお引き受けしてますし、

そちらの方はまだまだこれからも続けてみたい気持ちであります。

セント・ジョージで3人のサイコセラピスト研修生たちとの仕事なくなるのは淋しいともいえませんが、病院での他の面倒な管理運営上の業務やら、理事会やらにもはや付き合わされることなくなくなるのを喜んでおります。つまり仕事を全て断念するというではありません、ただちょっと生活上の煩雑さをより省いて、己の関心の赴くままに気儘に暮らしたいというわけです。Kate Paul が私の後任になることに関心を示してくれております。彼女をどうにか確保できればと思っておりますところですよ。

ほらね、私はこんな具合ですし、親愛なるチズコ、あなたは私を喪うわけではないのですよ。

あなたのおたよりで武田病院での様子を伺い、難しい状況であることが察せられました。入院患者さんたちはどうやら精神分析的治療でも、またどれほど皆が全力を傾注したとしても、おそらく援助されるには病態が重過ぎるようですね。

われわれが恐れるのは、全部がすっからかんに無くなることですが、何をして全部といえまじょうか？我々の全体が問題になっているのです。わたしたちの赤ん坊の部分は自分のニーズをよく承知していますから泣き喚くのです。<こんなにもあなたを必要としているのに、なぜにわたしを置き去りにするのか>と…。誰をも彼をも破壊せんとするわたしたちのうちの最も残酷な部分は、チャンスさえあればすばやく不幸福感をあちこちに撒き散らします。赤ん坊の怒りの感情にしがみつき、そうすればするほどに赤ん坊の怒りは猛々しいものになりまじょうし、それでわたしたちのまだ

ましな大人の部分の方はいえ、愛しかつ大事に思っている誰かに対して自分が怒りを向けたことで罪悪感をいっそう覚えざるを得ない始末でしょう。そうした最も残酷な部分のわたしは、自分の惨めさと罪意識に加えて、さらに無価値感に苛まれ、我が身に鞭を振り立て、<おまえなんか、役立たずで屑だ>とばかりに言い募るでしょう。それで、愛することなどすっかり止めてしまうことになるのです。その言い訳に<ほらね、当然怒って当たり前だ。彼女はおまえなんか気にも留めていないといつも言ってるだろ。ほらね。おまえが彼女を求めているのを知っているのになぜおまえを置き去りになんかできるもんか。やっぱりそうだろ・・・>と。まあ、こんな調子でしょうね。

わたしたちのなかの赤ん坊は結局のところ怒る権利があるわけです。どうして赤ん坊に事の次第が分かろうはざがありまじょう。わたしたちの大人の部分こそが赤ん坊を慰め抱えてやらねばならないのです。しかしながらわたしたちの中のおとなの部分が悲哀にすっぽりと包まれているとき、これは至極困難となります。そして残酷な部分は決して終止符を打てずに、ただみじめたらしく不幸福感をあちこちに撒き散らすだけなのです。<ほらね、おまえが悪いんだ。もしもおまえがそれほど奪い尽くしたりしなければ、彼女は死ぬこともなかったのだから・・・>と云うのです。

しかし我々がこの残酷な部分についてよく承知していることは、それが常に残酷であるということとして、それから、もう一つはそれが決して決して真実を語らないということですよ。あなたはこの残酷な部分によってすっかり欺かれたり騙されたりはしませんでしょうが。しかし我々の誰もある程度まではそれを免れることなぞできはしません。殊更われわれが意気消沈していたり、悲哀やら

悲嘆に包まれているときなどは、そうした罫にすっぽり嵌ってしまうことになります。そしてそれらの偽りやら不実がわれわれのなかで混乱をひきおこし、さらなる不幸感を募らせるのです。

しかしながら、今あなたが真実、喪失に苦しんでいるとしても、それが全部ではない。わたしたちに与えられた愛、思い遣り、友情そして知恵はわたしたちのものなのです。そして、このことは病院の重症患者についても真実だと思われれます。

しかしながら、精神病患者との治療的取り組みは精神分析家そして心理臨床家いずれであっても、同僚たちからの緊密なるサポートによって支持されているとか、そしてスーパーヴィジョンを受けている、あるいはパーソナル・アナリシスを受けているといった被支援的状況下にあるということではなければ、おそらくは不可能かと思われるのです。もしそうした治療上の環境的条件が整っていなければ誰もなかなか重圧に耐えられるものではないでしょうから。

私はあなたがもっと子どもの症例を持たれるといいと思います。おそらくはそうした子どもたちはそれほど障害が重くないとしたら、あなたからの専門的援助をより活用できるのではないかと思われるからです。マスメディアを介しての普及が功を奏し、あなたの仕事に対しての理解度がますます広く募ってゆくことを祈っております。

それでは新しい年の初めを迎えまして、さらなる発展と幸せが訪れますように。

たくさんの愛を込めて

あなたの古き友人なるジョンより

.....



1981年3月20日

親愛なるチズコへ

今やとくつろいで金曜日の暮れのひとつきを過ごしております。1週間のセント・ジョージ病院での勤務を終え、夕餉をいただき、床に就きましたとき、ふとあなたにおたよりをしようと、そんな気になったわけです。春はもう訪れており、アーモンドの花はほころび始めております。チズコのフラミンゴの色にも似て、それはいつもと変わらぬ色合いで、そしていつもと変わらぬ優美さです。私の庭にはスノー・ドロップスの花が顔を覗かせ始めております。あなたがいらっしゃれば、その愛らしい花を摘んで差し上げたところでしょうにね。

考えてみれば、私は7月末にはセント・ジョージ病院を退職しますわけで、あそこの皆に会える最後の春というわけです。それを考えると不思議な気分です。病院の友人らとのお別れは淋しいですが、通勤のことやら理事会やらを考えると嬉しいといった感じで、とても複雑です。

自宅にはかなりの数の訓練生がスーパーヴィジョンにお越しですし、とても愉しんでいるのです。どの方も優秀で実に気持ちのいい方たちですし、彼ら一人ひとりから聞かせていただく症例がとても魅力的なものですから。そうこうしているうちに、私どもの息子たちは立派な若者に成長しまして、背も随分と大きくなりましたよ。

セント・ジョージ病院での私の後任に応募してくる人がごく僅かで、どうやらハムステッド系の人らがあれこれ動き廻っておりますようでして。私としては **Kate Paul** を採用したいと願っている

のですが、彼女がどのくらいこちらに勤務する時間が割けるかが問題なのです。これ迄のところ、一人が応募してきてまして、どうやら指導的な経験は皆無といったところみたいですし、後はセラピストの資格を取得したばかりと云った人がもう一人という具合でして…。ここしばらくはハムステッドのうるさ方たちと渡り合わねばならないでしょう。時間も労力も消耗でしかありませんが。それで最悪の場合には結局私の後任には誰一人見つけられないといった事態に遭遇するかも知れません。そうなれば私としてはどうすればいいのか迷います。7月末までには退職を希望しておりますが、もしかして私が70歳になります来年の2月迄は今のまま留まるかも知れません。でも、それは私の本意ではありませんわけで。

しかしながら、そんな私のことなどよりも、もっとあなたのことが気掛かりです。その後どうしておいででしょうか。案じておりますよ。なぜならば、あなたはもっと大変で困難な状況の中でひたすら奮闘なさっておいでとお見受けいたしますので。つまり周りを見渡せばサイコセラピイという考えについて概して何の役にも立ちそうもない世論が圧倒的に幅を利かせておりましようから。もっとも此地であっても世論は決して好意的というわけではありませんけれどもね。

ところで、先日私があなたに送ったローゼンフェルドの論文の出典ですが、下記の通りです。
【Problems of Psychosis (Colloquium on Psychosis Montreal 1969), H.Rosenfeld.
Published in Excerpta Medica 1971】

そう云えば、私が自分で個人開業を始めた折に少なからず苦渋を味わった当時のことを思い出しました。私の許にセラピイの患者を送って

くれる人が一人二人いて、そうした援助があって、取り敢えず初めに一人とか二人とかごく僅かな患者と始めてるうちに、徐々に他の精神科医らに少しずつ知られるところとなったという次第なものでした。つまりは、まずは精神科医、内科医、そしてソーシャル・サービスなどの職種の人間たちに我々の仕事内容をなんとか理解してもらい必要があるのです。彼らに仲介してもらわなければ、セラピイの患者が自分一人で我々の許に来れるはずもないのですから。

あなたは孤軍奮闘しておいでとしたり、とても状況は困難でしょうし、折々に孤独を感じたり失望を懐いたりするのは当然でありましよう。時折絶望感を味わうことだってありましようね。

しかし一つのこと確かだと思えるのです。それはそこに踏みとどまる限り、結局のところ最後には切り抜けることができるということです。あなたのお国では終戦後大きな絶望感を味わいました。しかし現在を御覧なさい。日本人は今や世界中の人びとに対して影響力を持ち、尊敬されておいでなのですからね。

私の息子 Jock の話になりますが、彼はしばらくとても困難な状況にありました。彼は British Petroleum という会社に就職し、コンピューターの部署に納まっていたのですが、どうも変てこな上司がいたお蔭で、全然自分の能力を生かせるどころか、まるで会社の中で自分の将来の展望も見えずといったところだったのです。それで、彼はとうとう Ph.D. を取得しようと思立ち、決意を新たに会社を去ったのです。それからしばらくあちこちに履歴書を送り続けて、それへの返事の大概は落胆せざるを得ないものでしたが、とうとう King's College London の研究室から採用

通知が届いたわけです。そしてそこに行き始めてから1週間も経たず、その部署の長なる人から話があって、博士号の学位論文に取り掛かるのはどうだろうかと奨められたというわけです。取得迄の期間中、ずうっと彼らが Jock への資金援助を全面的に保証してくれることになります。

この3ヶ月という期間、Jock にとって未来はまったくの空白でした。何もかもがうまく行かない、これからもずうっとこんな調子だろうと彼は思っていたわけです。でも実際に、人は踏んばってそこにしがみついているれば、なんとか切り抜けられるということがあるようですね。でもそれが結果的にそうなるまでは、その事態がうまく切り抜けられるなど思いも寄らないわけです。あなたについてもそうではないかしらと思うのです。

今日は日曜です。明日はセント・ジョージ病院へ出勤です。そして火曜日以降、休暇でシリヤ諸島を訪れてまいります。ここで息抜きが出来るのがほんとに嬉しいです。私の後任に1人2人の応募者がありましたが、誰もこれといった印象に残る人はいなくて、本当のところ Kate Paul 以外はもう誰も駄目だとすら私は内心想っているわけです。しかしながら、この当面の難事になんとか対処するしかありません。もしかして案外ことはすんなり行くのではないかとも思っているのですが。

あなたの方の近況をどうぞお知らせ下さい。

たくさんの愛を込めて

あなたの古き友より

ジョンより



1981年8月24日

親愛なるチズコへ

[於: Rock House, St.Martin's,
Isles-of Scilly, Cornwall, England]

お久しぶりのたよりになりますが、私はとても元気で、只今は夏季休暇中です。コーンウォールの地でヨット三昧の日々を快適に過ごしております。セント・ジョージ病院は7月1日付けで退職しました。Kate Paulが私の後任に決まりまして、彼女は9月からスタートします。彼女に後を引き受けてもらったことで、私としては至極満足で、病院の皆さん方もこの人事を幸運なことに思ってくれております。

退職は私の気分としてはかなり辛いものがありました。これで私の‘公的’な職務は終わったというわけですから、早くこの事態に慣れてゆかねばという思いです。病院でサイコセラピスト研修生の面倒をみることもなくなったということは淋しくもあり、あそこで親しかった友人たちとの別離にも辛いものがありました。今後彼らに折々に会う機会はなくもないでしょうが。取り敢えず今のところ、プライベートで私どもに通ってこられるサイコセラピスト訓練生が5人ほどおられますし、10月に開始されるタヴィでの臨床セミナーを担当します。タヴィストック・クリニックの学外講師(an external lecturer)として要請されたのです。ですから、タヴィとの接触はまだまだ失わずにおりますわけで、実に嬉しい限りなのです。

ところで、キャロライン※から2週間前に手紙を受け取りましたよ。[※訳注: タヴィのかつての同

期生 & セント・ジョージ病院の同僚。]年に一回ほど夏季休暇中に近況を書いて寄こしてくれるのですが。その手紙によりますと、彼女のセラピー・ケースは3人の子どもの患者、それに7人の成人の患者だそうです。そのうち3,4人が週3回のセッションだそうです、他には週2回で、残りは週1回といった具合だそうです。1セッションに付き料金は30-50ドルだということです。それから彼女はより重度の情緒障害児のホームを開設したんだそうです。子どもらは総勢6名ほどで、年齢は6歳から12歳の間とか。日常の養育上の全ての世話をしなくてはいけないんだそうです。あと2人のパートナーと共同経営らしいですが。既に州の方から措置された子どもらが送られてきてるとか。それらのうち2人が週3回のセッションの分析を予定してるんだそうで、1セッションに付き60ドルの収入にいずれなるんだそうです。こんな具合ですから、概して彼女は幸せと云えそうですね。何とかなりそうだという思いでいるみたいですし。しかしながら自分のケースについて話す人が誰もいないとも言っていましたよ。実際に精神分析的な背景を持つセミナーもないし、他に相談できそうなサイコセラピストも身近にいないんだそうです。そういうわけで、彼女の状況は日本のあなたとあまり変わらないということになります。でも全般にアメリカの人びとは精神分析への受容態勢としては格段に用意があるともいえますし、その観点からしてはあなたの方がより困難な状況といえ言えるでしょうが。

この夏の間、Alastair がしばらく我が家に戻ってきまして同居してましたが、また直ぐにいなくなりました。それから Donald がやってきて、ここしばらく休暇の間はまだ滞在しております。Jock は5日ほど我々と一緒に過ごしました。Sandy はこの夏の期間、アメリカに出掛けております。

いずれ戻ってきて、医学部での研修医実習に入ります。それから Don〔訳注：メルツァーのこと〕にパーソナリ・アナリシスを受けることが予定されております。こんなふうに息子たちは大きく成長してゆき、近頃は普段滅多に顔を合わせることもなくなりました。

私はこの休暇中にドナルド・メルツァーの著作【Kleinian Development】を読み直していたところです。それにピオンの著書【San Paulo +New York】もね。こちらは近刊です。それら両方とも、実に素晴らしい本です。それから、今私はあなた宛の手紙を夕刻8時に庭先で書いているのですが。棕櫚の木越しに遠景には海や小島が眺められ、落陽で輝いています。渡り鳥なのか、賑やかに群れていてクークー鳴いていたのが、南の方へと飛び去ってゆきます。ツバメたちもです。

ダイアナはつい先日、もう片方の大腿部の手術を受けたばかりなのですが、だいぶ調子はいいみたいです。彼女は《The Lincoln Institute》で来る10月初め以降に、成人のサイコセラピスト・コースの訓練生になるのです。このコースの評判はとていいものですが、我々タヴィと比較しますと、どうやら‘中道派 middle group’といえましょう。彼女がそれを愉しんでくれるといいと思ってます。近い将来に子どもたちが職を得て家から巣立ってゆくことを思えば、コースの受講に気が紛れて彼女が子どもたちのことで淋しい思いをせずに済むでしょうからね。

さてその後、チズコはご機嫌いかがなのでしょう。どうぞ休暇を存分に愉しんでくださるよう。お仕事の方も順調であることを祈っております。

たくさんの愛を込めて ジョンより

.....



1981年12月13日

親愛なるチズコへ

先日は、日本の美しいカレンダーと心温まるお手紙を頂戴しまして大変に嬉しく思いました。ほんとうにどうも有難う。

あなたからのお知らせで病院を退職されたと伺いましたが、それも結構かと思いました。やはりあまりにも混乱を極めた、病態の重い患者さんばかりで、なかなかセラピイの症例として適当なケースが見つからないとしたら、そこに長居は無用ということになるでしょう。

やはり本来では、もしそうした精神病の症例を治療するとしたら、慎重にあなたの治療的環境を専門のエキスパートたちからの援助で十分に固めてからやることです。そうでなければ無理と考えたほうが無難です。あなたのところにはプライベートの患者が何人かお越しと伺いましたから、私としてはとても嬉しく思います。それに臨床セミナーを主宰なさって、そこに集う有志の、精神科医やら心理職の方々をご指導なさっておいでなのはとても素晴らしいことに思います。

個人開業でセラピイの患者を持つことと後進の指導することとは、双方がどちらもそれぞれに関連し意味を持ち合うものと思われま。あなたが実際に診ることの出来るセラピイの患者数はごく限られているとしても、あなたの今為さっておいでのお仕事はいわば結晶にも似て、そこから更なる別の結晶が生まれるということをぜひ信じてたく思います。それは日本にとってもいいことであり、また我々皆にとってもいいことなのです。

キャロラインのご両親がどちらも精神分析家であるというのは本当ですし、彼女の仕事上のことでご両親に話を聞いてもらえる、少なくともお父上とならば、それも時折はできるに違いありませんが。でも、彼女に帰国を促したのはあの地でセラピストとして彼女が働くためにというより、むしろ家事手伝いとか弟・妹の世話を彼女にしてみたいためだったようですよ。残念ながら、家族として相互に喜んで助け合っているといった印象はどうも乏しいように窺われます。それがあなたには間違いなくございますわけで。それに彼女には話しが出来る人というのが、1人や2人、ごく僅かいるとしても、我々のようにトレーニングを受けたといった人たちではないわけですしね。

あなたのご家族は、あなたをそしてあなたのお仕事をも、どんなにか誇りにしておいでに違いありません。たとえ状況がどんなに前途多難に見えたとしても…。私があなたを誇りに思っていることは勿論であります。

さて、私がセント・ジョージを退職してからしばらく経つわけですが、何人かタヴィの訓練生のトレーニング・ケースのスーパーヴィジョンもお引き受けしておりますし、タヴィ内で臨床セミナーをも2つほど担当しております。いずれはタヴィの‘客員講師’という肩書きを頂戴するとの見込みでありまして、私としては喜んでおるところです。

ご想像どおり、私としてはこうした展開をとても愉しんでおりますわけです。もっとゆっくりできるかと思っていたのに、なんだか以前よりもっとなにかと忙しくなっているのです。セント・ジョージ病院への通勤に車の運転の往復をせず済みますしね。それに病棟内の症例会議も近頃とても退屈でつまらなくなってきましたし、

理事会の会議やらも、それに‘政治的’駆け引きなどにかかずらうことがもはや無いというのが気分的にとても清々いたします。Kate Paul はセラピストとして実に才気溢れる人で、私の後任として立派に仕事に取り掛かっておいでと伺っております。

目下のところ息子たちが全員自宅に戻っておりまして、それは結構なのですが、それぞれの勝手気儘な事情やらで始終行ったり来たりなものですから、なにかと私ども夫婦の日常の暮らしの秩序が壊されかねないといったことがなくもありませんわけです。

妻のダイアナは、《The Lincoln Institute》でのトレーニングを開始したところです。成人のセラピスト養成コースです。それで手始めに「乳児観察」を始めまして、すごく愉しんでいるのですよ。別にカウンセラーとしての仕事にも従事しておりますから、結構忙しいといえましょう。

雪が全国的に降っています。今晚などはひどい嵐で猛吹雪が予想されています。私はクリスマスプレゼントをまだ2つほどしか準備が出来なくて、まだ家族のために買い物をしなくてははいけませんのに、こんなお天気では出掛けるのはさでどうしようかと悩んでおりますところです。

ダイアナと私の家族皆があなたに宜しくと申ししております。あなたもあなたのご家族にも良きクリスマスとすてきな新年を迎えられますようにと祈っております。改めてお贈りくださったカレンダーと、あなたからの素敵なおたよりに感謝申します。

たくさんの愛を込めて
ジョンより

.....



1982年12月12日

親愛なるチズコへ

あなたのお名前が何に因んでいるのかをいっぞやお教えいただきました。それであなたを思うときは、いつもピンクがかったフラミンゴ※の一群れが、夕暮れの平和なひととき或いは朝焼けの陽が昇るときに、大空に羽ばたいている情景が目には浮かびます。[※訳注：千鶴子の‘鶴’がフラミンゴと混同されている。ジョンの記憶違い。]

そんなふうに思ってあなたにチズコという名前を付けられ、さらにはあなたがそうした輝かしいあなたとなることを心から願ってのことだとしたら、あなたはご両親にどんなに感謝しても足りないでしょうね。あなたの名前からして、あなたが生れながらに愛と美と真実に満ち溢れていることに気づかれるでしょう。それら全ては一つであり、各々それぞれに他を含むものです。このように愛によって身ごもられ、つまりあなたの名前がその証であるわけですが、あなたは命という贈り物を与えられただけではなく、あなたの健やかな成長において、そしてあなたの生涯に亘ってずっと、愛・真実・美をも与えられることになりましょう。これとともに、更にもう一つ別の贈り物、同じくとても貴重なるものですが、それはあなた自身の愛する能力[パワー]という贈り物があります。それが故に、あなたの大きい幸福感そして大きい愛情は、翻ってご両親に、家族にそして友人たちにもお返しとしてもたらされないはずはありません。だからね、チズコ、あなたがご両親に感謝することだけではありません。あなたの友人たちの誰もがあなたのご両親に対して、あなたをチズコと名付けられたことに感謝し、そしてあなたに対

しても、まさにそんなふうなあなたでいてくださること
に感謝する理由があると申せましょう。

あなたが楽しいクリスマスをお過ごしくださるよ
うに、また今年が実りある年であったように、19
83年もまたさらにそうであることを祈って、それを
あなたにぜひお伝えいたしたいと思って、この手
紙を書き綴っております。

あなたが我々の元から去ってしばし経つわけ
ですが、此地のあなたの友人たちはまるでつい
昨日あなたが去ったみたいに、あなたへの愛情
は少しも薄れることなく、あなたの記憶は尚も鮮
明なままに覚えておりますよ。

私にとってこの一年はあつという間だったように
思われます。実は去年のクリスマスそして新年は、
腎臓結石で入院していたのです。もしかして癌
であるかも知れないという疑いもあったのですが、
手術の結果、そうではないと判明しました。しか
しそれ以降も、検査のため病院に頻繁に通う
必要があり、それで何とか異変が見つければ、
手遅れにならずにすぐさま処置できるようにとい
う体勢を要したという次第です。それもこれもお蔭
さまでなんとか快復しまして、今は大丈夫なの
ですが。ほんの少し老いた感じは否めません。

今でも自宅で仕事は続けております。訓練
生が9人ほどスーパーヴィジョンにお越しですし。
月曜日の晩には7人ほどの訓練生のグループが
集まり、臨床セミナーを継続しております。彼ら
との仕事は実に魅力的です。訓練生たちは堅
実でかつ興味深い人たちが多くと申せましょう。
タヴィの訓練は本当になかなかのものだと思
うのです。これらと並行して、児童ガイダンスクリ
ックやら公共医療施設で臨床活動を開始しよ

とする初心者向けに論文をしたためつもりで
いるのです。しかしこれが実に遅々としてはかど
りません。いざ自分がなにやら思いついたもの
を書き留めようとして眼鏡を探しますのに、それ
がどこにも見つからないといってんやわんやし
たり、時間を消耗してばかり・・・といった具
合。いずれにしてもほんの少しづつは前進して
おりますけどもね。

ダイアナはカウンセリング業務、それに成人
サイコセラピストをめざしての《The Lincoln
Institute》でのトレーニングの両方でとても忙
しく張り切っております。Jock は24歳になり、
生化学の Ph.D.(博士号)を取得することを希
望しております。目下のところ癌リサーチに取
り組んでるところです。22歳の Sandy は今や
一人暮らしをしていて、The Royal Free 病
院で医者の卵として臨床実習の半ばにありま
す。Alastair は19歳で、同じく医学生として
の第一年目で、すごく張り切っています。おな
じく双子で19歳の Donald は Portsmouth 大
学で工科の学位を取得しようとしています、凄
く満足している様子です。息子たちは皆、今
や立派な若者に育っております。Jock と
Alastair は自宅におりますが、他の二人も
かなり頻繁に家に立ち寄ってくれます。ダイ
アナと私は1階と地下の部屋へと移り、上の
3階と4階は息子たちに譲ることにしたわけ
です。もし彼らが住まないとしても、いず
れ部屋を賃貸するということにして、その貯
蓄でいつか彼ら自身が自分たちの住まいを
それぞれ購入するということであってもよろ
しいですね。

あなたが下さったソニーのラジオ & テー
プレコーダーは調子がよく、私にとても多
くの慰めを与えてくれます。それに、あな
たがお送りくださった日本の絵画を折々
に眺めみても、いつも尽きない悦びに浸
っております。

いずれ又どうぞあなたの方の近況をお知らせください。それではどうぞ素晴らしいクリスマスとお正月をお迎えますように。愛を込めて

あなたの古き友より

ジョン・A・ブレンナーより



1983年12月27日

最愛なるチズコへ

あなたからクリスマスを祝う美しいカードそして贈り物が、それに《ヤマガミクリニック》の新しい、心躍る素敵なパンフレットが手許に届けられました。ちょうどクリスマス直前に届いたのでしたが、とても素晴らしくて、それらが私をどんなに幸せな気持ちにしたか、とても言い表すことが出来ないほどで、実に望外の喜びでありました。

実はちょうどあなたにクリスマスに向けてのおたよりをそろそろ書こうとしていた頃にでしたか、私の弟が亡くなったのです。彼は、私を別にすれば、ブレンナー家の最後の生き残りなのでした。ですから、私の父母、私の祖父母を覚えていて、かつ我々の幼少時そして青年期を過ごした日々の思い出を語り合うことの出来る人はもはや誰一人生き残ってはおりません。郷里スコットランドの我がブレンナー家は、とても深く互いを愛し、思い遣る家族なのでした。彼の死は実に大きな悲しみです。

そういうわけですから尚更にあなたからのお知らせが私にとってどれほどの大きな喜びであったかがお分かりでしょう。実によくあなたが頑張られましたことを心から喜んでおります。個人開業によくぞそこまで精出されましたね。後進の指導に、

それに分析治療に、それに Mrs.クラインの本の翻訳に・・・ですものね。でも後輩の皆さんにスーパーヴィジョンをなさるといのは興味深いという意味だけではなく、そこからあなた自身にとって実に多くの学びがございましたでしょう。

それからもう一つ、そちらで著名な或る文筆家が、あなたやらあなたの仕事に注目してくださって、本に書いてくださったというお話※。それは実に嬉しいことです。それはあなたの助けになったのは勿論に違いありませんが、精神分析の価値なるものがあなたの国にもたらされるきっかけとなったという意味合いでも素晴らしいことです。

〔※訳注：木村治美著《ころの時代に一私の精神分析入門》文藝春秋 1983〕

いつの日か、あなたの国において多数の精神分析家が輩出されることを望んでおります。そうして彼らの理解から我々西洋の人間が学ぶことは多々ありましようし。そんなふうにして実に小さな種から芽生えたものがいつしかたくさんの大きな樹木に育つやも知れないのです。

ほらね、私がいつかあなたに申し上げことはまったくその通りじゃありませんか。あなたがパーソナル・アナリシスを終了して後の数年の間にどんなにかあなたの理解力やら実践力が伸びるかということ、いつか振り返りきつとあなたは驚かれるに違いないと申しましたよね。それにあなたの中で分析体験がどれ程生き永らえて意味を持ち続けているかに気づかれるかということも・・・それはこれからあなたの生涯を通して尚も息づいて大きく羽ばたいてゆくものと信じております。

さて、私はダイアナにクリスマス・プレゼントに電子タイプライターを贈りました。日本製ですよ。

彼女はもうひどく喜んでおります。とってもタッチが軽くて、操作が楽なのです。それにもし間違っても、その訂正がとっても簡単なのです。そうですから、彼女が症例報告を纏めようとするときなどは今後もっと素早くもっと容易に片付けることができます。彼女は成人のサイコセラピストとしての訓練コースの最後の年を迎えております。

私は、タヴィの訓練生を、それも結構な数、スーパーヴィジョンにお引き受けしております、彼らのトレーニング・ケースを見ております。すごく面白いです。私の息子たちも順調です。Jock、Sandy、それに Alastair は医学専攻です。Donald は電子工学へ進もうとしております。彼らのうち3人がクリスマスに帰省して参ります。Sandy だけはオーストラリアに出掛けており、10週間ほど彼の地で病院実習を体験するわけです。彼はこの夏に最終試験が待っています。

Nusia Bick と Dinah Rosenbluth は今年の夏、お亡くなりです。Mary Boston と Shirley Hoxter、それに Isca Wittenberg はタヴィで研修コースの運営に携わり忙しくしておいでです。**Mattie Harris**と**Don Meltzer** ご夫妻は、どうやらピオンについて映画製作を企画してらして、それに没頭しているようなのです。なんでもインド人のプロデューサーが製作者なんだそうですよ。とてもいいものが出来そうに思われます。

あなたから頂戴しました日本製の敷物は、私の部屋に飾りましょう。あなたもご家族もどうぞお健やかに。そして、新しい年がたくさん幸せと実りある成功をそして健康をもたらしますようにと祈っております。 たくさんの愛を込めて

あなたの古き友ジョンより

.....



1986年1月7日

親愛なるチズコへ

クリスマスとお正月を迎えるこの時期になりますと、必ずや私はあなたを思い出し懐かしさでいっぱいとなり、それでたくさんの幸せな気分を味わうことになりますけれども、また同時にあなたがこの地にはおられず、お話することも叶わないことが淋しくなりません。私の胸の内にあなたは生き生きとまさにここに私どもと共に居てくださっていると感じてはおりますけれども。

クリスマスはどうお過ごしでしたか？今年があなたにとってもご家族にとってもどうかたくさんの喜びが訪れますようにと祈っております。

私は依然としてタヴィの訓練生のお世話を続けております。トレーニング・ケースをスーパーヴィジョンしたり、それに臨床セミナーをも継続しております。彼らが自宅にお越しの際には、コーヒーとビスケットでおもてなしします。そんな雰囲気でもとても自由に彼らがいろいろな考えを披露してくれますので、それに耳を傾けながら、私としてはとても愉快的時を過ごしております。私も近頃少しずつ年を取ってきたとはいえ、おそらくこんなふうにごく少数でも訓練生のお世話が続けられたらいいなと考えているところです。

あなたが読むのにちょうどいい本が探せないかと思っております、それで何か見つければぜひお贈りしたいと思っておりましたが、昨今は全然見当たりません。どうも年を取ると、だんだんいろんな意味で私の興味が薄れてしまっているからかも知れませんけれどもね。。

ここに写真を同封いたしました。あなたのかつての教え子だった **Dr.Taka Kinugasa**※、奥さんの Junko さん、そして息子の10歳の Satoshi くん、それに娘さんたち、8歳の Masako ちゃんと3才半の Yasuyo ちゃんです。タヴィでお会いしたときに自宅にお茶へご招待したのです。その折の写真です。彼はとてもいい方ですね。ご家族は大変に素晴らしい。〔※訳注：Dr.衣笠隆幸、当時タヴィストック・クリニックで研修中であった。〕

写真の中にはダイアナと私ばかりでなく、たまたま居合わせた双子の Sandy + Alastair も一緒に写っております。ダイアナと私は以前と大して違ってるようには見えませんでしょ。どうですかね。手前に居るのが Sandy で、つい最近彼は医師の資格を取得しましたよ。彼は目下ヨットで大西洋を横断しておりまして、立ち寄った西インド諸島のトバコから電話を掛けてまいりまして、自分も精神科医になるつもりだと申してました。この月末には戻ってまいりますし、そのうちいずれ精神科医としての研修に就くことになりましょう。

Alastair と Jock は臨床実習の最中で、いずれも彼らの場合も、精神科医になるか、一般開業医のどちらかになりましょう。Donald は電子工学を専攻しております。ダイアナは成人サイコセラピストの資格取得するのともう直です。

ところで、ダイアナと私はエーゲ海にあるギリシャ領のロードス島を空の便で訪れました。12月27日以降、彼の地では1週間ほど滞在しました。陽射しをいっぱい浴びることができて素晴らしかったですよ。宿泊したホテルが海沿いにあって、1550B.C.以降の(つまり3500年の間というわけ!)昔そのままに古代都市の真っ只中に位置してまして、そこのテラスで朝食やランチを

いただきました。前年の夏季休暇にシリー諸島で過ごしたときには毎日が雨続きで、そんなことはこの25年の間で初めてだったのですが、再び太陽の顔を拝めて、実に爽快な気分でした。

それでは、親愛なるチズコ、お暇な折にはどうぞ近況をぜひおたよりください。

たくさんの愛を込めて

あなたの古き友人

ジョン・A・ブレンナーより



1986年4月30日

親愛なるチズコへ

ここに**ピオン**を記念して出版された本※をお贈り致します。あなたも是非にも欲しいと思われるに違いないと思いましたが・・・〔※訳注：【Do I dare disturb the universe?—A Memorial to Wilfred R. Bion】James.S.Grostein,Editor Marsfield Reprints London 1983〕

たくさんの寄稿された論文が掲載されておりますが、このうち幾つかは実に素晴らしい。お勧めです。**ピオン**の思考は、精神分析の臨床実践において、多方面に重要さを増しております。ともかくもあなたがこれらの中から興味のあるものを幾つかでも見つけられたらいいと思ひまして、愛情を込めてお贈りする次第です。

さて、我が家の息子 Sandy は今やついに Dr.ブレンナーとなりましたよ。エディンバラの地に赴き、そこの精神科病院での臨時代替医師として働くことになったのです。いずれは研修医になりましょう。Jock + Alastair は医学の勉強を続け

ておりますし、Donald はエンジニアリングの学位を取得したばかりです。私はタヴィの訓練生のスーパーヴィジョンを続けておりますし、ダイアナはもう直に、成人サイコセラピストとして資格を取得いたします。

あなたは **Mattie Harris** [訳注: Mrs. マーサ・ハリスのこと] が車の事故に遭遇したことはご承知でしょう。その後彼女は快復し、だいぶ落ち着いております、が依然として会話が不自由のようです。**Don** [訳注: Dr. メルツァーのこと] は新しい著作に取り掛かっておりますようです。Sue Rollins は男児を出産いたしました。タヴィでの近況といえば、Shirley Hoxter が退職しますため、**Margaret Rustin** がその後任に就きました。Mary Boston + Isca Wittenberg は徐々にタヴィでの仕事量を減らしつつあります。

そういったところですが。さてチズコ、あなたの方はご機嫌いかがですか？あなたは忘れられてはおりませんのですよ。

たくさんの愛を込めて
ジョンより



1987年12月27日

親愛なるチズコへ

あなたの素敵なおカードがちょうどクリスマス・イヴに到着しました。お蔭でとても心慰められ、私はこのクリスマスをいっそう幸せな気分で過ごしております。

あなたの近況をおたよりでお知らせいただき、至極喜んでおります。なにかしら良からぬことが起きてはいまいかと実は気掛かりにしていたので

す。しかしながら、どんな事態に遭遇しようとも、あなたが完全に打ちのめされることなどないと私は信じております。なぜなら、あなたはやらねばならないことを断固遂行しようという決意をいつもお持ちでいらっしゃるのですから。

ですから、あなたが翻訳の仕事をも尚も続行しておいでと伺い、とても嬉しく安堵しております。それは大変貴重なことですね。それに、あなたの周囲にはあなたをサポートしてくれる分析家たちがそう多くはいないということからしても、あなたが折々に大変孤独でかつ困難を味わっておいでではないかと思われまますから尚更です。

我が家のクリスマスは大変賑やかなものでしたよ。ダイアナと私、Jock, Sandy, Alastair + Donald, それに Jeanette が加わりました。彼女は Donald のガールフレンドです。

ダイアナは成人サイコセラピの臨床実践に忙しく明け暮れております。しかし問題がありまして、関節炎が嵩じて大腿骨がぼろぼろになってきているみたいなのです。以前の手術の結果がどうもおもわしくなく、改めて手術することを検討している最中なのですが、どうやら今後、からだの障害を引き摺ってゆくようです。歩行は今や松葉杖の補助なしでは困難になっておりますが。車の運転の方は今でも大丈夫やれております。

私はあと5週間すれば76歳になります、それで車の運転は諦めることにしたのです。愛車に乗れないのは実に淋しい限りですが。私は今尚、タヴィの訓練生のスーパーヴィジョンを続けておりますし、週に1回の臨床セミナーも続けておりますが、少しずつ全体に暮らしはよりゆったりとしたペースになりつつあります。

Jock は医学部の訓練の最終学年になりましたし、この夏頃には医師の資格が取得されるでしょう。Alastair についても同様です。Jock は免疫学の専門医になることを考えておりますようです。Alastair の場合は一般開業医になるみたいなのですが、Donald は電気工学の学位を取得しましたから、これからは公認会計士になって実業界入りすることを目下思案している模様です。SandyはThe Charring Cross 病院の精神科病棟の研修医になりましたよ。

Shirley Hoxter+Mary Boston はタヴィを隠退されました。Isca Wittenberg ももう直に隠退なさることでしょう。Donald Meltzer は益々意気軒昂です。先日も彼の素晴らしい講演を聴くことができました。

私は人生を精いっぱい謳歌してるといえましょう。訓練生たちとのワークがあり、庭仕事があり、それに家族がありますからね。明後日、ダイアナと私は地中海のマジョルカ島へと空の旅をいたします。一週間そちらで滞在する予定です。車をレンタルし、あちこちドライブをしますから、のびのびと地中海の島々の風景を思う存分に愉しむことでしょう。(地中海性西部のスペイン寄りの島なのですよ。)

さて、どうやらお茶にお招きしてあったお客様が玄関に到着したようですから、私は行かなくてはなりません。それではチズコ、どうぞくれぐれもご自分をお大事になさってくださいね。いついつ迄もこれからずっとあなたが喜びと平安と幸福に包まれますように。 愛を込めて

ジョンより



1988年12月21日

親愛なるチズコへ

あなたのご両親がチズコという名前をあなたに付けられたのは実にブラボーでした。その名のとおり‘幸福’やら‘喜悦’をあなたは彼らにもたらしたわけですし、それは実に私にもそうであるわけです。

あなたからの贈り物、日本語訳のメス・クラインの著作※が届きました。このようなあなたの大変な労作を頂戴し、私としては大変光栄に思います。私どもの家宝となりましょう。この翻訳をやり遂げられたことで、あなたは我々両国に、そして精神分析の歴史にも貢献なされたことになりましょう。〔※訳注:「メラニー・クライン著作集・『児童分析の記録 I & II』 誠信書房〕

それにとっても美しいカードを有難う。そこには何千羽という鶴が天空を舞っている絵が描かれておりました。この絵のようなのがチズコ、あなたであるとしたら、あなたがチズコであって本当に良かったです。

ほんとうに懐かしく回想されます。あなたが最初にセント・ジョージ病院に尋ねてみえたときのこと、そしてその後、タヴィの訓練生となられて以降、ご縁があって再び私どもの許に正式に面接を受けにお越しいたこと、そしてめでたくChild Psychotherapist-traineeとして採用されて以来、私どもとご一緒した日々のことなどが・・。

私はこの夏の終わり頃、ついにタヴィの訓練生をお引き受けすることを止めております。隠退

したのです。仕事が以前ほどにはかどらなくなり
ましたし、一寸うとうと眠気を催すことがありま
すし。でも時折元の教え子やら友人らが私に会
いに来てくれることがありまして、そうしたときには
やはりすごく心嬉しいです。

それから、夏に一番末っ子の息子 Donald が
結婚したんですよ。お相手はとっても素敵なお
嬢さんなのです。2番目の息子 Sandy は精神
科の研修医になりましたし。一番上の息子の
Jock は医師ですし、Alastair もまた同じく医師
をめざしております。私の妻ダイアナは大腿骨部
に支障を抱えておりまして、歩行はひどく困難に
なっております。しかし車の運転はまだ大丈夫や
れております。来年早々には手術する見込みで
おりますところですよ。それまではともかく彼女は自
宅でプライベートの患者(成人)を診ておりま
すし、タヴィでのワークショップにも参加したりで、結
構精力的に動いておりますわけです。

さて、そろそろ筆を止めなくてはいいですね。
あまり長々と書き綴ると、私の手書きの文字が
判読しづらくなるといけませんから。それではチズ
コ、どうぞくれぐれもお大事に。もしもあなたが休
暇でこちらにお越しになられることがあれば、お
目に掛かれましょうから、そうだととても嬉しいの
ですが。。。

では、私どもからのクリスマスのお祝いを申し
ます。どうぞ存分にお楽しみになってください。
そして、来る新しい年にはどうぞあなたも、そして
ご家族の皆さま方もお健やかに、そしてたくさん
の幸福が訪れますように。

たくさんのお愛を込めて
あなたの古き友人 ジョンより

.....



1989年2月8日

最愛なるチズコへ

誕生日のお祝いの贈り物※があなたから届け
られ、それはこの上なく精巧で優雅なもので、ど
んなにか狂喜したことでしょう。本当に有難うご
ざいました。〔※訳注:木目込みの雛人形一対。〕

赤い絨毯を敷いた台座の上に居並ぶ一対
の男女の像は、私のこころを温もりでいっぱい
に満たします。そして愛しい思いやら愛しまれて
いるといった思いもまた。。。

私は日本語を読めませんので、日本ではこ
れらの人形がどのような意味を表すものかよく解
りませんが、かつて古代ローマ人たちがよく屋敷
内にお供えしたところの、ラレースとかペナーテー
スといって、家の守り神やら炉床の守り神なので
すが、そうした神聖なる神々の像が想起されま
す。私個人にとりまして彼ら一対なるものは、父
親と母親だったり、父親と娘だったり、兄と妹だ
ったり、むしろそんなことが思い浮かびます。私ども
はそうした彼らから愛、思い遣り、庇護、そして
賢明なる導きを貰い受け、そして今尚も貰い受
けていると言えますわけで。そして彼らとはまた、
我々が我々の愛、思い遣り、そして擁護を与え
んとするところの、まさにそうした何ものかであり
ます。我々が最初に善きこと、真実なるもの、そし
て美なるものについての知識を与えられたとした
ら、それは彼らからであるわけなのです。

さらに私の想像力を羽ばかせるならば、彼ら
はまた、王と女王、王子と王女、父なるものと
母なるもの、それから ‘いつか父になるもの’ と

‘いつか母親になるもの’などが想起させられます。より本質的に申しますならば、そこには家族というものの中にある、凡て良きものの神秘が象徴されているように思われます。それによってこそ我々すべての命は生涯を通して支えられるのですし、またそれは家族の絆を超えて、我々が関わり合い、愛し合う人びとも分かち合われるはずの何ものかでありましょう。

そういうわけで、チズコ、あなたのお蔭で私の心は大いなる幸福感で満たされ、あなたの愛によって、それから私のあなたへの愛によってもまたいっぱい満たされております。

本当に素晴らしい贈り物、有難うございました。私の誕生日は2月12日なものですから、それにちょうど折好く間に合ったというわけなのです。あなたはほんとうにあの幸福をもたらす、優美なる鶴そのものようですね。日々これらの麗しくも愛らしい人形たちを眺めながら、私はあなたが私のこころの中にいることを感じ、幸福感と愛に包まれるに違いありませんでしょう。

たくさんの愛を込めて

ジョンより



1992年11月25日

親愛なるチズコへ

私どもには息子ばかりで、娘が一人もおりませんので、あなたのことを愛娘として自分の心のなかで勝手にそう思い込んでおります。それも無いものねだりの埋め合わせという意味では決してなくて、なぜなら、たとえ私に素敵な娘が居たとしても、それでも尚もあなたのことを懐かしんで、

心に掛けないわけにはゆかないのですからね。日本がそんなにも遠い国であるのが悲しいです。もしもフランスとかスペインとかギリシャとか、あるいはイタリアだったら、ダイアナと一緒に私は休暇であなたに会いに行くこともできたでしょうから。

さて、私はクリスマスにあなたに贈り物を探しておりましたが、どうにも見つからず、あなたに本を送ることに致しました。ピオンの【Cogitation】です。Cogitation というのはラテン語かローマ語で‘思考’という意味なのです。この書物は彼の奥さんが彼の死後に編纂して出版したものです。それは彼が思索中に書き留めた覚書を網羅したものです。これは理解するにはちょっと骨を折りましょう。ピオンの著書のどれもが、もしくは講演でも、決して易しくはありません。しかし人に考えさせるのです。そしてあれこれと考えているうちに、真実を見る新しい視座を得るのです。私はピオンを英国の哲学者の偉大な一人だと考えております。そういうわけですから、結局のところ、いつものように、私があなたに送るものは実に‘英国のなにか’ということになりますね。

ところで、或時、ダイアナがタヴィのワークショップに参加しておりましたら、それは Giana と Arthur Hyatwilliams が企画した摂食障害についてのワークショップなのですが、そこで Dr.Naoto Yazaki という方に会いました。あなたは日本では有名だとおっしゃったとか、彼からダイアナは伺ったようですよ。彼はあなたの翻訳した例のメラニー・クラインの『児童分析の記録』をお持ちなんだそうですが、日本に置いてきて、こちらには持ってこなかったというわけです。それで私があなたから頂いた分をお貸しすることにしたのです。彼には必ずお返しいただくようにと、なぜというとそれは私のもっとも大事に大事にしているものだ

からと、そう彼に告げた次第です。彼と彼の奥さんをクリスマスの過ぎた頃に食事にお招きしておりますからいずれお越しになるでしょう。

今ではタヴィの成人の研修部門に8人もの日本人の医師たちが在籍しておいでだと彼からお聞きしたと、ダイアナが申しましたが、かくして、あなたの国の優れた長所が、そして精神分析の秀れた利点が大いに励起されんとして、今やあなたの影響感化は疑いもなく拡がりつつあるということのようですね。あなたのお国の人たちが卓越した、逞しい智力を有されますことは注目されるところであり、論文が書かれるなどすれば、真実なるものの理解がさらに進展されますことは言うに及びません。是非にも今後のめざましい活躍が期待されましょう。

Dr.Taka Kinugasa、それから彼の素敵なご家族にも、あなたがお会いすることはございませんか？もしお会いなさることがあれば、どうぞ私もから宜しくと申し上げて下さいね。彼らとお会いできたことはとても嬉しゅうございましたから。

さてチズコ、その後のそちらの様子はいかがですか？凡てうまくいっているようにと心から願っております。

私どものこちらの近況ですが、下の息子たち、双子のどちらかが結婚しました。孫の誕生はまだですけれどもね。どちらもとても幸せそうで行ってるみたいです。JockとSandyも同様です。Donaldは今やコンピューター・アナリスト+プログラマーです。Merchant Bankに勤めております。Alastairは一般開業医ですし、Sandyは精神科医です。Jockはウィルス学者です。皆それぞれによく頑張っております。

ダイアナはプライベートで患者を診る個人開業に精出しております。スーパーヴィジョンに出かけたり、タヴィでのワークショップにも出かけてます。彼女は歩行には杖が必要ですし、ごくゆっくりとしか歩けません、だがとてもよく頑張っております。仕事には多大な喜びを得ておりますし、彼女は実に生気に溢れております。

私の方はというと、元気で幸せにしております。できるだけ生き延びようとしています。ちょっと体力は衰えてはきたかも知れませんが、視力も聴力も以前ほどではありませんし、庭いじりも以前ほどは出来なくなりましたし、日中にちょっと居眠りしたりして、夜に目覚めることがあります。もう直、2月には81歳になりますから、そんなことも実に年相応と申せましょう。

さて、チズコ、クリスマスを存分に楽しんでくださるように。そして素晴らしい新年をどうぞお迎えくださるように。私にとって此の世はあなたが居てくださるお蔭で、とても幸せな場所なのです。

たくさんの愛を込めて

あなたの古き友人

ジョン・A・ブレンナーより

(追伸:ダイアナからもあなたに愛を込めて宜しくお伝えするよにこのことです。)



【ブレンナー家の紋章】

.....

【訳者あとがき】

精神分析の課題：パーソナル personal 及びパーソン person をめぐって

「精神分析」とは徹頭徹尾パーソナル・マター（私ごと・自分ごと）にこだわるものだ。もしそうだとしたら、精神分析の精神が培われるのは人と人との交わり、それもパーソナルな関わりが不可欠である。即ち、まずは己自身を相手にパーソナルなものとして差し出すということだ。これは精神分析家が臨床の場において、被分析者に対するスタンスにもついても言えることだが、ややもすればパーソナルであることを忌避する風潮がある。一般に「パッシブ・ニュートラル」であることを教えられてはいまいか。自分を相手に与えることを知らない心理臨床家が増えていることを憂う。心が育つ・育まれるということはパーソナルな相互の結び付きを土壌とする。その前提を放棄しての精神分析はもはや精神分析ではない。臍抜けた精神分析に過ぎない。私にとっての「タヴィストック体験」とは、実にそれを教えられたことを意味する。問題となるのは技巧でも理論でもないということ。我々個々一人ひとり「わたしなるもの」そして「あなたなるもの」がパーソンとして在るという現実立ち会っている。そこに何を求めるとするかは光が問題となろう。そして、そこに求められる光とはパーソンのパーソナルたる何ものかなのだ。この秘訣こそが精神分析の醍醐味であり、禪でいうところの「不立文字」の由縁である。言うに言われぬものを敢えて語ろうとするならば、語られた・聞かれた心を心の眼で見、心の耳で聞くしかない。それがいかなるものとして結実するか、そのパーソナルたるものもまた、心の眼・心の耳が要る。それを切実に希求する者がいる限りは、「精神分析」は尚も不滅だと思いたい。

ジョン・ブレンナーからの手紙はまさにそのことを私に教えた。パーソナルたるものとは汲めども尽きせぬ泉の如きものだ。枯らしてはならない。

明治期以降、我らの先達は‘和魂洋才’を掲げて、西洋文化を取り込まんと切磋琢磨したが、その盲点がこれだ。パーソンという自意識、パーソナルたるものの啓蒙が看過されてきた。「夏目漱石」が今尚古びていないとしたら、彼が誰よりも真つ先に先鞭を付けたものがまさにこれであったからではないのか。時折夏目漱石ブームというのがあるようだが、彼から手渡されたボタンを引き継ぎ、私たちは尚もそれと対峙することに手間取っているせいではないか。つまりは、明治期以降、日本人が無意識の内に‘知らないで知っている、知っていながら知らない’何かであり、それが意識へ‘知らねばならぬ’と内側から促すのである。それは間違いなく自分には‘無い’と云う感覚、つまり欠如に関連している。パーソンという自意識、パーソナルたるものの啓蒙は決して片付いてはない。むしろその取りくみは始まってもないと言ってよかろう。パーソンとしての輪郭を、そして目鼻立ちを持ちたいと思うこと、さらにはわたしなるものの中身が問題だという自覚が何故にそれほど困難極まりないのだろうか。我々は果たしてそれに向かい合えるだろうか。我々日本人にとって「精神分析」とは取りも直さずまずはそれだと観念することではなからうか。

そしてここに、ジョン・ブレンナーの書簡が何かしら意味をもつとしたら、‘パーソンという自意識、パーソナルたるものの啓蒙’が彼という人格を彩るところの‘樂觀’を通して我々の手許に届けられたということではないか。我々は断じて恐れたり怯んだりしてはなるまい。（2013/1/15 記）

.....